

地元で文化の花を咲かせたいと願う若者



小美玉さくらフェスティバル 2013
実行委員長

河野 陽介 さん

「みの〜れでの活動を地元で活かしたい」と力強く語る河野さん。

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.68

立春を過ぎて、春の気配を感じる日もありませんね。福寿草の花や、ロウバイの花が寒さにじっと耐えて綺麗な花を咲かせています。今年は寒いせいかわ梅の便りは少し遅れているようです。花粉症の方には辛い季節になりそうですが、春の足音は少しずつ近づいてきました。今回はさくらフェスティバルの実行委員長を務める神栖市にお住いの河野陽介さん取材しました。

実行委員皆で 成功させるぞ！

「河野さんは東京藝術大学で音楽の勉強をしている。母が音楽を出して、家にはグランドピアノがあり、小さい頃から音楽が身近な環境にいました。中学校では吹奏楽部で、高校は合唱部に入りました」と話す河野さんは茨城県神栖市から高速バスに乗り、東京まで通学し1時間半かけて車で通ってくる。

「もともと、みの〜れの存在は知っていましたが、茨城青少年交流会館を中心に活動している時にみなり、おもしろい活動を知っている施設なんだと思う、興味をわきました。そして、たくさんボランティアが集う『さくらフェスティバル実行委員会』と『Staffegg』に申し込みをしてみました。河野さんは、たくさんボランティア活動をしており、特に市民を巻き込む、住民参画型の企画に力を入れていた。その想いとみの〜れの活動はともリンクして、みの〜れから色々な学びと学ぼうと考えた。」

「大学でも学園祭などのイベントを企画していたので、さくらフェスティバルでその経験を活かせるんじゃないか、実行委員長に立候補しました。将来的には自分の地元、神栖市（10万人弱）を文化が豊かなまちとして盛り上げていきたいと思っています。文化などをつなげていくために、みんな自分も文化の集まる場所にアンテナをはって、出向いていきたいと思っています。みの〜れは神栖市から時間をかけてでも来たいと思うほど、魅力がある施設です」と話す。

また河野さんは、地元の神栖市に防災公園が出来ることになり、委員を募集していたので応募したという。役員になり、会議の場で「小さくてもいいから素敵なホールをつくってほしい」と一生懸命提案した。結果、見事つくってもらえることになった。さくらフェスティバルは公民館があるだけで、文化ホールがないんです。みんなに何年先も使ってもらえるホールがほしいなと思います。震災以降は、宮城に2回、清掃活動に参加しました。音楽だけじゃなく、一市民として参加して、自分に何かできないかと考えています。震災以降何かスイッチが入ってしまったんですね。」と河野さん。

013では、被災地の方がタオ

「自分でやってみたいことを提案したので、不安な部分もありましたが、昨年は自分より年下の人が実行委員長をやったそうなので、自分にもできるだろうと自信がきました！学校では学べない、イベントを企画してコンサートを開くという実践はいい機会だと思っています。」

最後に小美玉さくらフェスティバル2013への意気込みを聞いてみた。

「自分のスケジュールの中で、お休みはあるのか尋ねると「休みの日は都内の結婚式場で聖歌隊の仕事をしています。趣味と実益を兼ねて、だいたい音大生や卒業生がやっています」とどこまでも忙しい方であった。

藤田佐知子